

平成 29 年 3 月 6 日

千葉木鶏クラブ

(380 回 例会)

# ある青年の夢

春一番・春二番と春は荒っぽいからと言いつてもなりませんが「過ちて改めざる是を過ちと謂う」(衛霊公第十五)が身に沁みました。

先月、諸般の事情でご迷惑をお掛けしましたこと、改めてお詫び申し上げます。

さて、今回は「ある青年の夢」と題し、安岡先生の講話をテープにて拝聴いたします。

「夫れ古今の英雄豪傑多く情欲上より倣(な)し来る。情欲上より倣し来れば則ち驚天動地の大功業と雖(いえど)も、要するに夢中の技量のみ。夢の是非を評するは明道の君子の言うを浴せざる所にして、是れ史論の亦罕(まれ)なる所以なるか」

(洗心洞筭記：大塩平八郎)

今回も、人間學が満ち溢れてます

どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。

皆様のお越しをお待ちしています。

## 記

1. 日 時 : 平成 29 年 3 月 25 日 (土)  
AM 9 時 30 分 ~ 12 時 00 分
2. 場 所 : 千葉市生涯学習センター ミーテングルーム (3F)  
電話 : 043-207-5811  
<交通案内> JR 千葉駅東口から徒歩 8 分
3. 会 費 : 1000 円
4. 演 題 : ある青年の夢
5. 講 師 : 安岡正篤先生 (テープにて拝聴)
6. 内 容 (概要)  
『枕中記』  
唐の名臣・李泌の作と伝えられており、乱難の時代に 鄴侯に封じられたが  
常軌に拘らず履歴に超凡の趣があった。  
しかし、同僚から中傷され謀反の嫌疑で警察。嫌気をさし自殺を図ろうとするが女房に  
助けられる。再び皇帝に召し抱えられ大臣として封爵に。  
李泌の小説、「春眠・暁を覚えず、処々・啼鳥を聞く。夜来風雨の声、花落つること知る  
多少」(孟浩然の名詩) 黄梁一炊の夢」「邯鄲の一夢」(栄枯盛衰のはかないこと) 等など。  
古来、多くの夢物語の中でも、中国・日本共通して知れ渡っている。

[千葉木鶏クラブ 代表兼事務局 丸島 忠夫 Email : marushima\\_t@snow.plala.or.jp](http://www.marushima_t@snow.plala.or.jp)

[Tel : 0475-25-1211](tel:0475-25-1211)